

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	Prognostic factor for patients with borderline resectable and locally advanced pancreatic ductal adenocarcinoma after curative-intent resection
	研究目的	浸潤性膵管癌症例のうち手術の適応となるのはおよそ全体の15~20%であり、そのうち切除可能境界（BR）例、局所進行（LAPC）症例では化学療法および化学放射線療法による治療後の切除により予後の改善が報告されているが、BR、LAPC例における予後因子に関する検討は少ない。本研究ではBR、LAPC膵癌症例における予後規定因子の探索を目的とする。
	研究対象者	2013年から2020年までに当院で手術を行った切除可能境界（BR）、局所進行（LAPC）症例膵癌96例を対象とする。
	研究期間	西暦 2021 年 12 月 27 日 ~ 西暦 2022 年 6 月 30 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	村川正明
試料・情報を 利用する者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科(肝胆膵)
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし